

# TUMSAT-OACIS Repository - Tokyo

University of Marine Science and Technology

(東京海洋大学)

かつお一本釣り漁業におけるコスト削減に関する研究

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2023-12-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小田, 憲太郎 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://oacis.repo.nii.ac.jp/records/2000038">https://oacis.repo.nii.ac.jp/records/2000038</a>

## 〔課程博士〕（博士論文審査及び最終試験の結果要旨）

学生氏名：小田憲太郎

博士論文題目：かつお一本釣り漁業におけるコスト削減に関する研究

### 博士論文審査：

申請者から提出された論文については、公開発表会が 8 月 22 日に行われ、当該論文の概要の発表が申請者より行われた後、審査委員と申請者の間で質疑応答がなされた。提出論文は、6 章にわたり入念に作成されており、その内容は博士論文として十分との評価を得、審査員全員一致で合格の判定をした。研究内容の要約は以下の通りである。

かつお一本釣り漁業は、刺身用かつおの安定供給を目的とする国内水産業において重要な位置を占める産業である。しかし、操業時に活餌として使用するカタクチイワシの運搬・飼育に要する燃油コストが増大し、またその不安定な供給による操業ロス、活餌コストの高騰も大きな問題となっている。本研究は、かつお一本釣り漁業における経営コストを削減させる基礎として取り組んだものであり、カタクチイワシの水温耐性、低酸素耐性、アンモニア耐性を明らかにし、現状よりも燃油経費を大幅に削減できる輸送方法を提言した。また、天然のシラスを蓄養した、あるいは人工的に種苗生産したカタクチイワシを使った釣獲試験を実施し、天然活餌と比較して遜色ない成績が得られ、活餌の人工生産に向けた基礎を築いた。

これらの成果は、かつお一本釣り漁業におけるコスト削減に大きく貢献するものであり、今後水産学分野のみならず、かつお一本釣り漁業の存続による食文化の保全にも大きく貢献する優れた研究といえる。

以上の内容から、学生から提出された博士論文は、国内外の研究の水準に照らし、水産学研究分野における学術的意義、新規性、独創性及び応用的価値を有しており、博士の学位に値することを審査委員一同確認した。

### 最終試験の結果要旨：

最終試験は 8 月 22 日に行われた。審査委員一同出席の下、学生に対して、博士論文の内容について最終確認のための質疑応答を行い、その内容は十分であった。一方、専門知識については公開発表会当日の質疑応答時や予備審査時でのディスカッションを含め十分であると審査委員一同確認した。

学術論文は 2 編が第一著者として公表済み（小田憲太郎・橋本 博・増田賢嗣・今泉 均・薄 浩則・照屋和久. 2018. 水産技術 10 (1), 1-7；Oda K, Hashimoto H, Teruya K, Dan S, Hamasaki K. 2021. Aquatic Animals 2021, AA2021-1）であることを確認した。

学術論文 1 編は英語で書かれており、英語の学力については問題ないと判断した。

また、研究内容を日本水産学会大会で発表していること、合同セミナーについて、規定の学習時間および出席回数を満たしていること、大学院海洋科学技術研究科が指定した研究者倫理教育を修了していることを確認するとともに、大学院海洋科学技術研究科が指定した方法により剽窃のチェックを行った結果、問題は認められなかった。

以上から、学生について博士論文審査、最終試験とも合格と判定した。